

令和5年度 事業報告書
上鳥羽北部いきいき市民活動センター

【指定管理者：一般社団法人 上鳥羽絆会】

1. 管理運営の状況

1 施設運営業務

(1) 職員体制

センター長 1 名、職員 7 名（非常勤 7 人）

【人材育成の取組】

- ・職員定例全体会議：全員出席 1 回／月（第 1 火曜日午前中）
その月の事業予定の確認、意見交換など
太陽光発電システム自立運転機能の作動確認も行っています。
- ・事業会議：随時 各事業の担当者が必要と判断した時にメンバーを集めて進捗状況の確認や意見交換を行います。議事録を職員内で回覧して、センター長が確認しました。
- ・職員研修：11 月 講師を招き「公式ラインとインスタグラムの有効な使い方」
3 月 講師を招き「学ぼう！コミュニケーション術」
についての研修を全職員が受けました。
- ・外部団体開催の研修会への参加：各事業の担当者が主に市民活動総合センターやエコ学区サポートセンター等の研修に参加し、アウトプットできるように努めました。
その他、吉祥院いきセンの事業に準備段階から参加したり、他センターの設備を見学させてもらったりと、各自が外に向けて積極的に関わることで自身の意欲やスキルの向上に繋がるように働きかけました。

(2) 貸館等

ア 利用件数

(月別)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
4 7	3 5	4 1	3 9	2 8	4 2	3 5	4 6	5 1	4 3	5 0	3 9

(年間)

4 9 7 件（前年度比 1 0 3 %）

前年度比⇒上期（4～9 月）8 9 . 9 % 下期（10～3 月）1 2 0 %

イ 利用状況

5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行された後、利用の増加を期待していましたが思うように伸びず、上期は前年度を下回りました。それでも下期は夜間利用のストレッチサークルが 2 部構成になったり、昼間利用のフラワーサークルが回数を増やされたりと、新規利用団体が増えたというよりも継続利用団体の利用時間や回数が増加したという状況です。それは当センターを気に入って利用していただいていることも理由のひとつと捉えています。

また、今年度の特徴としてはスマホ教室やマイナンバーカード新規申請の事業者利用、遠方の児童館(滋賀県など)が近隣の公共施設に遠足で来られた際の昼食場所としての利用など、コロナ禍が明けてさまざまな活動が活発になってきたことを実感したことが挙げられます。

ウ 利用促進に向けた取組

昨年度から導入している「仮予約システム」については概ね好評で、3～4回の利用がある月もあります。今のところトラブルもないので今後も継続し運用していきます。

また、昨年いただいた助言のなかの交流人口を意識して、近隣の吉祥院いきセンの事業に参加した際に当センターが“意外に近い場所にある”というアピールをさせてもらいました。すると、6年度4月から試しに利用をしてくださる団体がおられたり、当センター事業に頻繁に参加してくださる方がおられたりと、よい効果が現れています。

エ その他

サロンについては、前年度同様に事業実施時には多数の参加者がありますが、平常時の利用は少ないです。今年度は併設している「ことしよ」のPRを兼ねて、サロンに来てもらい、おひさまカフェ事業のなかで「朗読会イベント」を実施しました。

引き続きボランティアスタッフからもアイデアを募り、サロン運営を盛り上げていきたいです。

(3) 情報発信など

ア 取組実績

情報発信については、“より見やすく分かりやすく”をテーマにしてホームページを一新しました。アクセス数の変化などは分かりませんが、今後も正確で新しい情報発信を心掛けていきます。

公式ラインの友だちを増やすべく、地域の行事などでもPRをしました。そのなかで、シニア世代にスマートフォンの使い方に困っていたり、基本的なことを教えてもらいたいと思っている方がまだまだ多くおられることも実感しました。事業周知についてはやはりチラシも有効です。手渡しで直接に事業の説明などしてコミュニケーションをとれることはSNSに無いよい点です。

また、学区全戸に配布するセンター独自の情報源として「いきセンニュースレターつなぐ」を年3回発行しました。センターの情報だけでなく、地域諸団体の活動も掲載しており、反響があります。

イ 取組の効果

「ニュースレターつなぐ」No.18に地域諸団体が実施した「落書き消しの取り組み」について掲載したところ複数の問い合わせがあり、次回実施の協力を申し出る団体や個人が現れてつながりが広がった、という報告がありました。地域の連携や活性化の役に立っている事例です。

(4) 管理運営

- ・センター長を防火管理者に選定
- ・同法人の中唐戸児童館の避難訓練(火災・不審者侵入)に参加
- ・日常の点検として各部屋、建物外周などを勤務職員が清掃時などに点検(毎日2回)
- ・建物安全点検チェックシートにて月1回点検

- ・壁，雨水排水，屋上(太陽光パネル)を年2回点検
- ・自然災害（台風）が発生したあとの点検
- ・太陽光発電パワーコンディショナー切替動作確認を月1回
- ・建物総合点検：年1回
- ・消防点検：年2回
- ・館内清掃：年2回
- ・樹木剪定：年1回
- ・保安警備：毎日

外部業者に委託

等を実施

（５）その他

「施設運営の質を高めるための取組」

○センター内だけで事業をすすめるのではなく，外部との交流や連携をより一層深めることで施設運営の質の向上を目指しました。

- ・事業担当者は積極的に市民活動総合センターに出向き，事業運営のアドバイスを受けました。

- ・各事業の運営にはボランティアを含め，市民から活動スタッフに多く関わってもらえるように働きかけました。そこでうまれるひとつひとつの思いや経験などを共有することがその後の自立的な活動につながると考えます。

- ・吉祥院いきセンの事業に準備段階から関わったり，貸部屋の設備(大型鏡)について他センターを見学させてもらい，同時に事業の話を聞いたりすることは各センターの様子を直に知る事ができ，見習いたい点も多くありました。

○「なくてはならないいきいき市民活動センター」として，地域に寄り添いながら並走するいちばん身近な公共施設を目指しました。

- ・日々センターを訪れる方には，コピー機の使用方法を聞いて来られる方から自身の主宰団体の運営相談まで様々です。どのような時も誠実さをもってできる限りの対応をすることが求められます。そのためには職員は現状に満足するのではなく，個人としても組織としてもステップアップしていくことを意識してきました。

実践したこととしては，多様な利用者に対応するために車椅子を購入し，センター内で研修を受けました。

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】エコ活動事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和5年4月 ～ 令和6年3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター、中唐戸児童館、学区内公園
- 3 参加人数： 延べ373名
- 4 協力団体等： 認定NPO法人きょうとグリーンファンド、エコ学区サポートセンター、中唐戸児童館
南エコまちステーション、有限会社ひのでやエコライフ研究所、上鳥羽自治連合会
- 5 予算： 1,090,000円 / 決算： 1,078,197円

1 事業内容

- 環境問題を地域社会のテーマとし、多世代の市民（子ども含）が参加したり共感したりできる事業を通じて未来のエコの担い手を育てることを主眼に事業展開しました。
 - ・上鳥羽エコロジー体験(8月)：「見て・遊んで・学べる」体験型環境イベントを開催。廃材を使って子どもたち向けにワークショップなど行いました。
 - ・自然観察会(11月)：学区内の公園で樹木や草花、昆虫などの生態の説明を聞き自然の尊さや楽しさを知る、小学生とその親子対象の事業。講師を招き実施しました。
 - ・エコマルシェ(6月・8月・10月・12月・2月)：学区内5か所の公園にて6品目の資源物回収と環境についてのミニ座談会を来場者で行いました。
 - ・ロケットストーブ製作(通年)：ロケットストーブ現物を地域開催のイベントで展示実演しました。製作は近隣高校の生徒たちと行えました。詳細は後述します。
 - ・中唐戸児童館との取組：中唐戸児童館とより緊密に連携して、子どもたちの環境に対する意識の向上やその方法など児童館の事業に共に関わるなどして共有しました。
- 市民の認知度や関心度を高めるためにも各事業を「京都市認定エコイベント」に積極的に申請登録しました。

2 準備段階での工夫

- 「上鳥羽エコまちくらぶ」の発足に向け市民活動総合センターのアドバイスをもらいました。現在は地域住民のなかからエコメイトがうまれて、年間の事業を協働しています。
- 太陽光発電をもっと身近に感じてもらうために上鳥羽絆会が中心となり児童館門上にオフグリッド時計を設置する事業のサポートをしました。夜間照明としても役立っています。
- 環境分野の専門家であるNPO団体などと常に連携できていることは強みです。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

- 地球温暖化やSDGsの取組を各個人が意識することによって環境活動を広げながら担い手を育成することが目標。

(2) 事業実施による目標の達成度

- 各事業の参加者は昨年から大幅に増加したわけではないですが、共に活動する仲間が増えたことや思いがけない縁で高校生と交流をもち、ひとつのものを作りあげることができたことについては達成度が高いです。

アンケート結果：「いきいき自然観察会」

いろいろな葉っぱが楽しかった(小2) エコのぺんきょうができた(小2)
など、参加した子どもたちにとって良い経験として残っていることが伺えます。

4 今後の抱負

「上鳥羽エコまちくらぶ」が発足したことで共に活動できる仲間が増えたことは心強いです。身近な環境問題を子どもから大人までが自分事として考え、“よりよい未来”のために自分たちができる“ちょっといいこと”を今後も発信していきます。

次年度も既存事業の開催時期や内容の充実など再考しながら展開していきます。



【自然観察会】

講師の説明を熱心
にきく参加者の皆さん



【中唐戸児童館との取組】

オフグリッド時計設置の
点灯式

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】コミュニティガーデン ohana 支援事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和5年 4月 ～ 令和6年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室 コミュニティガーデン「ohana」
- 3 参加人数： 延べ214名
- 4 協力団体等： あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会 いきいき上鳥羽プロジェクト 写真サークル
- 5 予算： 325,000円 / 決算： 337,356円

1 事業内容

○ 地域の声から生まれたコミュニティガーデン「ohana」を地域や世代を超えた交流の拠点として、管理からイベントの発案まで行う任意団体「ohana会」と地域の活動を支援しました。

・花の町づくり事業：プランターを軒先に置いてもらえる企業や一般家庭を募り、花を通じてのつながりが広がるような活動をサポート

・ローズガーデン撮影会：バラの開花に合わせて任意団体「写真サークル」や一般来場者ともに撮影やSNS投稿のサポート

・研修会やイベント企画開催：ローズウィークやワークショップなどの企画や広報、実施のアドバイスと当日の運営補助

・助成金申請情報書類作成サポート：昨年度採択されたセブンイレブン財団からの助成金活用報告書作成などサポート

2 準備段階での工夫

○ 事業実施には複数の任意団体が関わることが多いが、平日は就労している世代が多いので当日の参加人数の調整やタイムスケジュールの共有などオンラインで行うこともありました。

○ 花々にまつわる事業なので、SNSで美しい写真などアップするように心掛けました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

○ 誰にでも花を愛でる気持ちがあることを信じ、地域住民や参加者が当団体の活動を通じて花だけでなく、周りの人や地域全体に豊かな気持ちを持ってもらえるきっかけをつくるのが目標。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ 継続的にすすんで花の手入れなどしてくださる方も増えてバラの開花を楽しみにしておられる方も多くなりました。この場所が地域のなかの交流スポットとして重要になってきていることには達成度は高いです。

4 今後の抱負

○ 今年度はセブンイレブン財団の助成金を活用して地域にプランターを複数置くことができたが、次年度は資金的に難しいので、その対策や代替えの活動などを共に考えてサポートしていくことが必要と考えます。



【ローズウィーク】

ゲスト「畳バンド」
のミニコンサート



【花の町づくり】

一般家庭の軒先に
植え込みをするボラ
ンティアさんたち

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】いきいき上鳥羽プロジェクト（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和5年 4月～令和6年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター会議室 学区内公園3か所 上鳥羽小学校
- 3 参加人数： 2165名 （ラジオ体操，コミュニティ回収持ち込み者を含む）
- 4 協力団体等： ohana 会，あんしんあんぜん上鳥羽推進委員会，上鳥羽小学校
上鳥羽ネットワーク，JA 上鳥羽，
- 5 予算： 1, 240, 000円 / 決算： 1, 264, 440円

1 事業内容

- 地域からうまれた団体の活動を支援。人と人とのつながりと地域の歴史や文化・伝統の継承に結びつくような事業を多様な観点から協働で実施しました。
- ・上鳥羽の農業を考える：ふらっとスペース開催（5，12月）ミニしめ縄づくり（12月）
- ・健康づくり事業：学区内3か所公園でラジオ体操を実施（週1回地域のボランティアを中心に運営）
11月には吉祥院いきセン「ふれあいひろば」に参加。当センターを出発しウォーキングで現地へ。近隣施設の作業療法士の指導のもと，会場の来場者とともにラジオ体操をイベントとして実施
- ・いきセンニュースレター「つなぐ」：取材，編集して3回発行（7，11，3月）
- ・上鳥羽の歴史を探る：「上鳥羽伝承座談会」を支援（9月） 地元の高齢者に語り部や進行役となってもらう。上鳥羽小学校の郷土資料室の整理と展示物の充実を小学校と連携して行う。
- ・上鳥羽検定：地元の良さを再認識してもらうためニュースレターの中にクイズ形式の“ミニ上鳥羽検定コーナー”を掲載
- ・みまもりプランター事業：地域団体との交流事業
- ・コミュニティ回収：ごみの減量を目指し毎月第2日曜日開催

2 準備段階での工夫

- 昨年に引き続き，若い担い手の育成に力を入れました。中心メンバーとして活発に気兼ねなく活動できるように必要に応じて専用の活動部屋を準備したりオンラインを利用したりと，卒業後も継続して関わられるように働きかけました。
- 定期的にニュースレターを発行し各戸に届けることで，地域独自の情報やセンター事業の案内などが「自分の手元に残る」情報源として機能します。

3 事業実施による効果・達成度

（1）当初の事業効果，目標等

- 市民の自主的な活動を支援する目的から，持続可能である自立的な活動につながるよう多様な観点から取り組むことが目標。また，参加者同士の交流から他事業への参加や貸館利用につながることを期待しました。

（2）事業実施による目標の達成度

- 「上鳥羽伝承座談会」の試みは学区の小学校を巻き込み，上鳥羽南部いきセンの水害関連資料を借りたり，センターのシニア利用者に更に上の世代の方たちを紹介してもらったりと，ボランティアスタッフ達のスムーズな連携が際立ちました。当日も自身の経験を

大切に話される高齢者，それを書き留めてすぐに SNS で発信してくれる学生スタッフ，そんな光景が確実に自立的な活動に向かっていると考えます。

4 今後の抱負

交流でうまれた“コミュニティ”を活かし，新たな活動と人の輪の広がりを模索していきます。それが貸館利用につながるように支援を続けていきます。

【ふらっとスペース】



【上鳥羽伝承座談会】



【健康づくり事業】

「ふれあいひろば」でラジオ体操

2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】おひさまカフェ事業（市民活動支援・活性化事業）

事業の概要

- 1 開催日時：①令和5年4月～令和6年3月 毎月第2日曜午後2時～3時「おひさまカフェ」
②令和6年1月～3月 毎週金曜午後6時30分～午後8時「大人のヨルカイ」
- 2 開催場所：上鳥羽北部いきいき市民活動センター 会議室及び自宅などから zoom 参加
- 3 参加人数：①延べ226名 ②延べ36名 合計 延べ262名(リモート参加含)
- 4 協力団体等：日曜歌声倶楽部等センター利用団体 京都シニア大学朗読愛好会
- 5 予算： 555,000円 / 決算： 548,785円

1 事業内容

○ ①月に一度決まった時間に参加者同士の交流が図れる場を設けました。交流会の様子は毎回 zoom アプリを利用してオンライン配信し、リモート参加も可能にしました。テーマはフリートーク、ヨガ配信、クリスマス会、朗読会 in ことしよ、うたごえカフェなど参加者の要望や提案を基本に設定しました。また、外部から講師を招き「SNSの活用について」講習会を実施し、職員のスキルアップを図りました。

②定例とは違う時間帯に新たな活動への参加者を募ることを目的に「大人のヨルカイ」を実施しました。

○ 助言から、これまでセンターを知らなかった方や利用したことがない方にも興味を持ってもらえるように参加者目線の意見や提案を積極的に毎月のテーマに取り入れしました。それを公式 LINE で発信することで地域外からも初参加する方もありました。

2 準備段階での工夫

○ ボランティアスタッフとのコミュニケーションや情報交換を密にすることで信頼関係を築き意見交換や提案等をしやすい環境づくりを心掛けました。そこから京都シニア大学とつながりが持て、クリスマス会やサロン事業への出演となりました。

○ 会場設営や ZOOM 配信等の配線など機材設営にボランティアとして協力してくれる利用者がおられました。

○ 公式 LINE を利用しての参加案内とセンター窓口での声かけなど多様な方法での広報

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果、目標等

○ 参加者同士の意見交換を通し、自ら楽しみを見つけ共有してもらうことが地域の活性化につながる。また、市民活動に興味を持ってもらう機会にもなり、異世代間の交流等が「自分も何かやってみたい」の思いを大きくしていくことが目標。そこで生まれた仲間やグループが他の市民団体とあらたな関係を築いていくことにも期待しています。

(2) 事業実施による目標の達成度

○ 事業テーマ設定やそのイベント実施に向けての準備やスケジュールリング、当日の司会進行までボランティアスタッフの手で自主的に行えた内容も多く、職員は支援する側に回るといういい形で年間活動ができたことには達成感があります。

アンケート結果：「クリスマス笑」

- ・参加者、出演者ともに皆さんいきいきとしておられるのでこちらも笑顔で楽しめた
- ・内容が充実していてよかった。また開催してほしい

4 今後の抱負

○「月に一度 誰もが気軽に参加できる交流の場」として少しずつ認知されてきましたが、更に交流が広がり、事業への協力者や運営側に回るあらたな人材の発掘や出会いの充実を目指したいです。既存のボランティアスタッフとの信頼関係の維持にも気を配り、自走化へ向けてのバックアップも継続していきます。



【クリスマス笑】

舞台発表と作品展示

【カフェ交流会】



2. 市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業

【事業名】なごみスペース～ようこそ～（サロン運営・活用事業）

事業の概要

- 1 開催日時： 令和5年 4月～ 令和6年 3月
- 2 開催場所： 上鳥羽北部いきいき市民活動センター 2階サロン
- 3 参加人数： 387名
- 4 協力団体等：いきいき絵本くらぶ，写真サークル
- 5 予算： 540,000円 / 決算： 544,037円

1 事業内容

○ 子育て世代からシニア世代まで多様な世代が集える場所を提供。“個と社会をつなぐ拠点”として機能するような事業を展開しました。

・なごみスペース～ようこそ～の開放：通常はフリースペースとして開放しているが、計画事業として「シェアエアコン」「ことしよ開設イベント」「記念日写真館」を実施。各事業で多年齢の参加者が共に過ごせました。

・講師を招き講演会，講習会を実施：2種類の講座を継続開催。特に体操講座は参加者の口コミにより常に満席。

・スタッフ定例会議：月1回意見交換をする場。「いきいき絵本クラブ」の活動日と並行。

2 準備段階での工夫

○ センター利用者さんの紹介で SKY 朗読同好会の皆さんに事業出演してもらえました。普段なかなか知り合う事がない団体との交流ができました。

3 事業実施による効果・達成度

(1) 当初の事業効果，目標等

○ 誰もが気軽に立ち寄り，多世代間交流の拠点となる場所とすることが目標

(2) 事業実施による目標の達成度

○ 参加者同士が仲良くなり他の事業にも連れだって参加されたり，こんな事業をしてほしいと意見をいただいたり，仲間づくりや交流の拠点として機能し始めていることには達成感があります。

○絵本クラブの活動と環境系 NPO 法人を繋げることができ，ひとつの作品を一年をかけて完成させ，発表の場を設けることができたことはコロナ禍を乗り越えてきてよかったとの感想がありました。

4 今後の抱負

○ 「ことしよ」の活用と活動スタッフの自立的な活動を活かしたサロン運営を展開することです。ある程度自由な発想の事業が行える利点をもっとしっかりと伝えて，職員とともに魅力あるサロンをつくっていききたいです。

【記念日写真館】

写真サークル会員がカメラマンに



【朗読会 in ことしょ】



3. 利用料金の収入実績及び管理運営に係る経費の収支決算

1 利用料金の収入実績

令和5年度実績：433,600円（前年度 379,900円）

内訳	会議室等：433,600円	
	附属設備：0円	※自主事業分を除く
	スモールオフィス：0円	

2 管理運営に係る経費の収支決算

別紙収支決算書のとおり

4. 施設の利用者満足度の把握

1 利用者満足度の把握状況

(1) 全センター共通窓口サービス調査

【実施時期】令和5年11月実施

【調査項目】窓口サービス

(2) センター独自アンケート

事業実施時にアンケートを実施

2 利用者満足度把握の結果

(1) 全センター共通窓口サービス

たいへん満足	満足	不満	たいへん不満	無回答
57.9%	41.8%	0.3%	0%	0%

(2) センター独自アンケート

- ・いきいき自然観察会(エコ活動事業)：概ね満足
- ・クリスマス笑(おひさまカフェ事業)：概ね満足
- ・朗読会 in ことしょ(おひさまカフェ・サロン合同事業)：概ね満足

3 意見等への主な対応状況

場所のわかりやすさについては毎回意見をいただいている点です。2階の窓に「貸会議室1h300円～」という表示をあらたに加えて外からの見つけやすさを強調しました。また、事業チラシにもQRコードをつけてそれを読み込むと最寄りの駅やバス停からの徒歩ルートがわかるようにしました。今できる範囲の対応を今後も考えていきます。

5. 指定管理者による管理運営業務の自己評価

取り組んだ事業等の総括

貸館事業については件数は微増しており、緩やかですが回復傾向にあります。使用料金を上限額よりも低く設定しての運営を始めて2年目となります。当センターの立地環境や世の中全体の値上げ傾向のなかでの利用者の心理など総体的に考えると、適切な判断だったのでは、と思います。

市民活動支援・活性化事業及びサロン運営・活用事業については、コロナ禍が落ち着き、外へ向けての活動が活発に返せて、そこに大勢の来場者やボランティアなどを呼び込めたことはよかったと思います。

また、今年度は思いがけない縁から活動のお手伝いをさせてもらうことで、私たちの意欲向上にもつながることがありました。ひとつめは、京都市立開建高等学校の防災クラブの皆さんとロケットストーブ製作をしたことです。これは南区役所の防災担当者からの紹介で地域の防災について関心が高い生徒たちと当センターの環境活動がうまくマッチングして実現しました。ふたつめは、京都が大好きだという東京大学大学院の中国人留学生さんが当センターの環境活動を含めた上鳥羽学区の取組を取材に来られ、交流が持てたことです。こちらはエコ学区サポートセンターからの紹介でした。いずれにしても、数年間コツコツと事業として積み重ねてきたことが、このようなかたちとなり、今まで全く接点なかった団体との結びつきになったことは今後のやりがいにつながります。

今後、解決すべき課題など

- ・貸館件数をアップさせることとその方法を考えること
- ・地域づくりの担い手を育成するために、いきいき市民活動センターが持つ役割をもっと広く知ってもらい、その役割を果たすためにどうすればよいかを職員内で再度共有して向き合うこと

次年度に向けた対応について

貸館件数のアップについては、設備の充実を行います。過去から何度か意見箱にもあった大型鏡を第2会議室に設置します。ダンスや着付けなどの利用団体の増加が見込めます。その他、日々の利用者の意見も吸い上げ、コンプライアンスも含めて丁寧で柔軟な対応を継続することに努めます。

「地域づくりの担い手育成」や「活動団体の自走化のための支援」はその方法に正解がなく自己評価も難しいです。それでも、職員内に現状維持を肯定する雰囲気まん延してしまわないように、指定管理期間の半分が終わって、残りの期間に施設として何ができるのか？何がやってみたいのか？を常に共有して管理運営していきます。

6. その他施設の管理運営に関する重要又は異例な事項

- 施設の管理運営（事業の実施を含む）に当たって、何か重要又は異例な事項があれば記載してください。

令和5年度財政援助団体等監査を受けました。

問題点は改善済です。